

芸能部五十年の歩み

芸能部

芸能部五十年の歩み

横道萬里雄氏に聞く

佐藤道子氏に聞く

三隅治雄氏に聞く

戸部銀作氏に聞く

一瞬に過ぎ去った三十六年八ヶ月

能楽技法研究会のこと

芸能部五十年の歩み

昭和二十七年十月に芸能部が発足してから、今年度で満五十年を迎えた。昭和二十五年に文化財保護法が制定され、文化財保護委員会が設置されたことを受けて、美術研究所が東京国立文化財研究所に生まれ変わったのが、昭和二十七年の四月であった。芸能部の発足はそれより半年遅れたわけだが、東京芸術大学音楽学部別科の邦楽教室に間借りするかたちで、無形文化財を研究する唯一の国立機関が誕生したのである。

平成十三年四月、行政改革によって独立行政法人となり、新たな方向に向けて活動を展開するなかでこの五十年を振り返り、着実に成果を上げてこられた先輩の苦労話や、折にふれうかがっていたエピソードをまとめてみよう、ということになった。OBである羽田昶氏のご協力を戴き、発足当時から専任研究員として勤務された三隅治雄氏、少し遅れて専任となられた横道萬里雄氏、佐藤道子氏、発足当時非常勤研究員として協力された戸部銀作氏からうかがったお話を高桑がまとめたのが、以下の聞き書きである。猛暑にあえぐ七、八月に研究所まで足を運んでくださった諸先輩には、深く感謝申し上げたい。また、羽田昶、中村茂子氏には思い出を寄せていただくこととした。少ない予算、限られた人員の中で芸能部がどのような活動をおこなってきたのか、その一端をかいま見ていただければ幸いである。

なおテープ起こしにあたって仁尾洋子氏のお力添えをいただいた。あわせて感謝申し上げます。また、付表類は俵木悟が担当した。